



かけはし通信



藤枝市こども課

架け橋の視点をもつこと そこから生まれる素敵な取組

8月5日に焼津文化センターで志太教育研究集会「幼・小の連携」研究部研修会が行われました。これは、毎年志太地区の全教職員が各教科、領域の研究部に分かれて行われているものです。

今年は、藤枝市立青島東小学校小学校の先生がR6年度からR7年度当初の取組を紹介してくださいました。

その中で、1年生の朝の会の健康観察での工夫が

紹介されました。よくある健康観察のやり方は、担任が子どもの名前を一人ずつ呼んで、返事をしたり、「元気です。」と答えたりします。このクラスでは、**全員で一人の名前を呼び**、呼ばれた子どもが返事をするようにしました。すると、子どもたちは自然に新しい友達の名前を覚え、心と体を向けて友達の返事を聞くようになったそうです。青島東小にも、多くの園から子どもたちが入学してきます。中には園から1人で入学し、不安でいっぱいの子もいたはずですが、毎朝の健康観察のおかげもあって、どの子も安心してスタートすることができたそうです。その後の子どもたちは、自分も相手も存在を認め合いながら日を追うごとに学校生活に慣れていく様子がみられました。

だれもが
クラスの一員
居場所がある

安心

さらに、友だちの名前を覚えたころ、ノートなどの配達を子どもたちに任せることで、「ひらがなを覚えれば、配達できる!!」と国語の「ひらがな」の学習の意欲につながっていったということでした。「どの子にも安心できる居場所がある」ことが、架け橋の取り組みを進める上で一番大切なことなのだと改めて思いました。

実践内容(4)子どもの思いを繋ぐ学級活動と授業づくり **②存在感が増す健康観察とひらがな学習(国語)**

視線や体を
向けた聞き方

みんなに
伝わる声

友達の名前を覚えて
呼ぶことができる

書いてある名前を
読むことができない

ひらがな学習
への意欲

【青島東小学校発表資料より】

「ふじえだ かけはしBOOK」が完成し、取り組みが始まって半年、「架け橋期」に関するアイディアを現場の皆さんから学ばせていただいています。

「誰もが安心して居心地よく」「ゆるやかなスタート」をキーワードに、無理なくできることから、少しずつ広がっていくといいなと思います。

